

研修報告書 No.23

県外病院初期臨床研修医

研修先： 大月町国民健康保険大月病院

2020年1月6日から1月31日の4週間、高知県幡多郡大月町にある大月町国民健康保険大月病院での研修、またその間2日間沖の島へき地診療所にて見学をさせていただきましたのでご報告させていただきます。

地域医療研修先として高知県を選択させていただいた理由は、他のどこの地域医療研修先よりも”地域医療”を推していたからです。私は東京で生まれ育ち、東京の大学病院で研修をしています。大学病院では、ありふれた疾患にも触れますがそれ以上に専門性の高い疾患や治療に当たることも多く、その土地に根ざしたいわゆる地域医療というものにこれまで触れる機会がほとんど無く、地域ではどのような医療が行われているのかを学ぶ貴重な機会と思い選択させていただきました。

このたび研修させていただいた大月病院のある高知県幡多郡大月町は、高知県西南の幡多地区のなかでも最西端に位置し、人口5000人弱の町です。大月病院は町内で唯一の病院で、病床数は急性期病棟25床、救急車の受け入れも行っていました。経験した疾患としては風邪や肺炎といった common disease から、心不全や敗血症など重症なもの、外傷や窒息など多岐にわたりました。研修が始まった当初の印象として、医療資源が限られていることを実感しました。院内ですぐに出せる検査は必要最低限の採血項目とレントゲンとCTが1台で、休日や時間外は医師自ら検査実施も行っていました。診療に当たる医師は3人で、外来診療から入院患者の管理、在宅や施設への訪問診療、平日の当直と休日の宿直をすべて3人で行っておられました。また幡多地区の中核病院へは大月町から車で1時間ほどの距離と遠く、人員もいて検査も比較的自由に迅速に行えて都内に関連病院がいくつもある大学病院からこれまで出たことがなかった私にとって、想像はしていたもののこうした環境はすべて衝撃かつ新鮮でした。またあるとき先生が、「大月病院は町で唯一の病院であり幡多地区の大きな病院へも遠いため、よほどの重症でない限り大月町民はまず大月病院を受診する。特にこうした医療過疎地域では、自分たちの医療のレベルがその土地の医療水準に直結する」とおっしゃっていたのが印象に残っています。地域医療を担うには、自分たちにできることを増やしていくことはもちろん重要ですが、限られた医療資源のなかで自分たちにできることを見極め、高度な治療を要する場合の中核病院へ紹介・搬送する決断力も求められると実感しました。

また印象に残った研修のひとつに訪問診療があります。大月病院では在宅介護の方や様々な理由から病院への通院が難しい方は月1度の訪問診療で対応しており、訪問診療では問診や診察だけでなく、次の訪問までの処方や必要があれば採血なども自宅や施設で行

っていました。公共交通機関として町内にはバスが通っていますが、本数も少なく、お世辞にも便利とは言えません。病院までの便がないために通院が困難になり、訪問診療導入となった患者さんも多く、訪問診療が地域における医療を支えているといっても過言ではないと感じました。また訪問診療していた患者さんの看取りにも立ち会う機会をいただき、最期を自宅で迎えることの尊さ、難しさや現状も知ることができました。

また4週間のうち2日間は、沖の島へき地診療所で見学させていただきました。現在、沖の島には常勤医がおらず、大月病院勤務の医師と高知市内の病院勤務の医師が交互に出張して診療に当たっており同行・見学させていただきました。診療所はさらに限られた医療資源しかありませんが、そのなか診療所で働く看護師さんが、医師がいない間の島の医療を支えていらっしゃるのだと知りました。

最後になりましたが、今回の研修に際し大月病院の先生や看護師さんを始め多くの方にお世話になりました。皆様のご協力があってこそこの充実した研修であったと実感しております。ありがとうございました。